

表紙

中央上

まんが

平戸キリシタン

丸尾山の

物語

ルイス・デ・アルメイダ

下部左

ユネスコ世界文化遺産

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

下部左

作 田中能孝

絵 米倉裕治

最下部左

発行 平戸市文化交流課 2019年7月1日

PAGE 1

No. 1

私の名前はルイス・デ・アルメイダ。

1561年、度島・生月・獅子・飯良集落で宣教した後、私は村人たちが用意した船に乗って、別のキリシタン集落である春日に向かいました。

No. 2

春日では、地元のキリシタンは丸尾山と呼ばれる丘の上に墓地をつくっていました。大きな十字架は集落の人々の強い信仰を象徴していました。

集落の人々は私たちが訪れるのを待っており、盛大に出迎えてくれました。

No. 3

私はこの集落の長の佐吉です。長旅でお疲れになったでしょう。

No. 4

集落民の一人が病で亡くなりました。私たちは彼女の埋葬の準備をしなくてはなりません。お気を悪くならないでください。

できることがあれば私も手伝いたいです。彼女のところに連れて行ってください。

下部右

ルイス・デ・アルメイダの書簡より

PAGE 2

No. 2

悲しむことはありません。あなたのお母さんはパライソへの安らかな旅に出発したのです。

No. 4

主よ、彼女に永遠の安息を与え、絶えざる光で彼女を—

No. 5

—照らしてください。

No. 6

主よ、彼女の魂を受け取ってください。彼女をあなたのおそばに導いてください。彼女が安らかに眠れますように。アーメン。

PAGE 3

No. 1

お母さん、これまで—

No. 2

—ありがとう。今はもう天国に行ってしまったけれど、僕はいつまでもお母さんの息子です。

No. 3

旅の途中、このロザリオをつくりました。

No. 4

これをあなたにあげます、三之介。このロザリオはあなたを守ってくれます。

No. 5

私はルイス・デ・アルメイダ。

春日には海と陸両方の美しい景色があります。この場所の人々は敬虔で善良です。

下部左

ルイス・デ・アルメイダの書簡より